

校長室より(17) 「全てがそろった学びの地＝富士宮」

○今日も富士宮西高等学校のホームページを御覧いただき、誠にありがとうございます。

季節は秋。10月を迎えました。

私のクラスではこの時期を迎えるとこんなメッセージを伝えたものです。

「月の桁数（けたかず）が二桁（ふたけた）になると、日々の流れは加速するからね！」

毎年感じるのですが、これから「年末」まで、あっという間ですね。

更に年度末（3月末）まで、これが何とも早く感じられるのです。皆様はいかがですか？

○数年前のこと。とある普通科高校です。女子の生徒が、6月のある日、担任の先生と進路の相談をしているようです。

「高校を卒業したら、船の勉強をしたいのです。船舶です。」

普通科高校には「船舶」の先生はおりません。夢を、希望を聞かせてもらって、担任の先生は励まします。それで面談は終わりです。ところがこの生徒には、「続編」があったのです…。

○「夏休みに水産高校の先生が見学させてくださる、ということだけでも、行ってみる？」

両校の先生方が相談をして、8月のある日、たまたま、お話を聴かせていただけることになりました。

当日はその上、幸運にもドッグ（点検整備）から帰ったばかりの実習船を、見せていただけることになったのです。水産科の専門の先生方、実習船の先生方、皆さんからお話を伺った上で、まだ港に着いたばかりの実習船、その熱気のこもった機関室（船舶エンジン）の実物を見せていただけたのです…。初めて見る「船舶エンジン」の「実物」が目の前に。迫力満点。感激しきり。

当然です。普通科の生徒にとっては、初めてのものばかりですから…。

○目標に向けて、どうも気持ちが上がってこない。今一つ、やる気になれない。

ところが「実物」に触れたとたんに、そんな生徒の「やる気」に火が灯る（ともる）。何となく、だった「夢」が「何としても行きたい目標」に変わる。そのための勉強はいつしか「強いられて」「つとめる」ものではなくなる。「その道」を目指す一人としての「準備」に変わるからです。

こうなると、高校生は強いです。やってもやっても、これでよし、とはならない。簡単にはたどり着けない。やりたいこと、やるべきことが、次々に生まれるようになる…。時間が足りなくなる…。

普通科で学びながら、専門学科の先生方からお話を聞かせていただいた、実際を見せていただいた、そして「覚悟」を持って勉強に取り組んだ、そうした生徒の一例です。

○ここからは、一人の校長が思い描く「妄想の世界」のお話です。例えば… のお話です。

高校生は1年生から2年生へと、学年が進む中で、将来的な目標、進路目標を掲げるようになります。個々の目標を掲げて、準備（勉強）をしはじめ、そして重ねていくのです。

もしも、農学部を志望する生徒がいたら…。もしも、工学部を志望する生徒がいたら…。例えば1年生から2年生のある日、それぞれ「農業科の先生」「工業科の先生」にお話を伺うことができたなら…。普通科高校では経験できない「実習」の基礎編を、ほんの少し、体験させていただけたら…。

農業の分野で、工業の分野で、今、何が話題となっているのか、次世代の農業、工業、産業の在り方について、専門の先生はどう考えられているのか。どんな経験や知識がこれから求められるようになるのか等々。

普通科の毎日の学びでは得られない「情報」と「刺激」が、そこから得られるのではないのでしょうか？その「刺激」こそ、学びの「推進力」そのものとなり得る。それも、非常に強力な。

○富士宮は「全て」がそろった街です。

市内公立高校4校には、普通科の先生方はもちろん、アート（芸術）、農業、工業、商業、福祉、保育等、関係教科の先生方、専門の先生方がおられます。専門の先生方のお話を伺う、英語の基礎力講座に参加する、4校で力を合わせてこうした機会を提供できたなら、富士宮で学ぶ高校生にとって、どれだけ大きな「推進力」となり得るか、私は楽しみでなりません。

すごいです、これは。

今日も富士山に見守られながら、西高生、先生方とも、笑顔が大変さわやかです。感謝。
本校にて、10/24（土）「公開授業」、11/11、18、25（水）「個別相談会」を開催します。
ぜひ、ご来校ください。

（校長 鈴木邦浩）